

## キクノネハネオレバエによるニンジンへの被害と防除の検討

三浦靖・藤村俊夫<sup>1)</sup>・西山芳邦<sup>2)</sup>・金場香織<sup>3)</sup>・平田早貴子<sup>4)</sup>・青木英子<sup>5)</sup>・  
藤澤春子<sup>5)</sup>

香川県農業試験場研究報告 第71号(2020年3月)41-46

1. 香川県観音寺市において黄色粘着トラップによる調査を行った結果、キクノネハネオレバエ成虫は4月上旬～中旬頃と10月下旬～11月下旬頃の2回発生が確認された。
2. キクノネハネオレバエ幼虫によるニンジン根部の被害は11月中旬から確認され始め、12月上旬から急激に増加した。10月下旬から成虫の発生が始まり、約2週間後に幼虫による穿孔が認められるようになった。
3. 秋の成虫飛来時期である10月中旬から～11月上旬の薬剤の茎葉散布は、その後の幼虫による根部被害を抑制した。
4. ジノテフラン水溶剤の茎葉散布、同剤の灌漑およびジメトエート乳剤の茎葉散布は幼虫による根部被害を抑制する効果が高く、次いでエマメクチン安息香酸塩乳剤、スピノサド水和剤の茎葉散布の効果が認められた。

キーワード：キクノネハネオレバエ，ニンジン，被害，防除